

六点

② 着ぶくれて相槌すこしづつずれる 恩田 才美

(以下 省略)

六点

寒三日月砕氷船の深き傷 藤崎安紀子

五点

③ 寒木の影の刻印揺るぎなし 増田 守

② 九条を守る署名や寒の街 藤本 友子

① 狐火に貯金通帳のぞかるる 恩田 才美

福という一文字の絵馬初大師 稲葉 幸

山頂に潤ほす喉や寒の水 藤本 友子

餌にむれし雀一列初日記 佐渡谷秀一

四点

① 二万歩や地図を片手の福詣 藤本 友子

① 凍雲やどこへ向かうかこの地球 藤崎安紀子

ブリューゲルの村となりぬる雪の朝 柏尾のり子

状差へ戻す絵葉書年惜しむ 佐渡谷秀一

三日はや始まるコーヒー依存症 古野 明美

独り居の小さく豆まく鬼は外 荒木ツル子

三点

② 初鏡羽化や脱皮は八十路にも 恩田 才美

① うたた寝の覚めし初雪音もなし 荒木ツル子

① 小つごもりこけしの埃拭ひけり 佐渡谷秀一

① 喪の明けて運河の水の初明り 古野 明美

二点

① 逝く人や空いた心に雲降る 京林 眞壽

① 除夜の鐘鳴らずも耳を澄ましけり 柏尾のり子

枯蟻蠅空家増へゆく半世紀 松浦かほる

父の年越せど心は成人の日 岩崎 眞三

腰痛の夫と居並び日向ぼこ 藤崎安紀子

迎春や無沙汰は無事と知る安堵 平野 邦子

道の端の積む雪に又雪つもる 桜井 幸枝

放射点や目印の星凍ててをり 柏尾のり子

雪晴や軒のしずくの休みなく 辻 幸子

おひねりの紙の花とぶ初芝居 稲葉 幸